

滋賀経済同友会、4つの魅力

第1の魅力は会員が個人の集まりであり、各企業の代表の集まりではない、という点である。通常、業界団体はその目的や対象領域の大小によってオーナーやそれぞれの担当者により構成されており、いずれの場合においても参加者は各企業の代表としての性格を帯びている。それに対して個人の集まりである経済同友会は、同じ会員であるという点において全員が対等であり、組織は原則として企業の規模や地位とは無関係に構成されている。さらに単年度制を採用することにより、活動は個人の影響力を形成する方向ではなく、人材育成という方向へと向かう。企業規模のいかんにかかわらず、各会員には均等にチャンスが与えられ、前向きエネルギーが評価の基準となる。そして、そのエネルギーの交流が企業の枠を超えた「友情」を育むのであり、結果的にそこで生まれた人間関係が会員にとっての最大の資産となる。

次に経済同友会が持つ異業種交流的要素である。通常、同じ業界においても製造・卸・販売はそれぞれ分野毎に細分化された団体を形成しており、それぞれの関係は上下関係や対立関係などで結ばれることはあっても対等の関係であることは多くない。しかし、経済同友会においては、業界や立場の異なるものが共通した基盤のうえに立ち、互いの違いを認め、その違いを大切にしたいうえで対等に意見を交換できる。言うまでもなく企業は社会的つながりなしでは存在し得ない。自らの企業を取り巻く環境と構造をいかに的確に把握し得るかが重要である。そういう意味でも利害や駆け引きを前提としない経済同友会は最高の情報交換の場なのである。

第3に滋賀経済同友会の底流に流れる近江商人の精神が挙げられよう。「何が多数かではなく、何が正しいか」を基本に行政や政治、そして時には経済界に対しても都度ニュートラルな立場で是々非々の主張を展開してきた。その活動の基盤を「三方よし」に置き、業界や企業各々の利害を超え、地域の将来にとって何が必要なのか、何が求められるのかを探究する姿勢は創立以来常に一貫している。会員は滋賀経済同友会での活動を通じて経営者として備えるべき骨格と企業が保つべき姿勢を学ぶことができる。

さらに加えて滋賀経済同友会が持つ第4の魅力は、永年にわたる環境問題への取り組みの中で培われてきたグローバルな視座であろう。環境問題は日本最大の湖・琵琶湖を擁する滋賀に生まれた経済同友会として常に喫緊の課題であり、最大のテーマであった。言うまでもなく地球は地域の積み重ねであり、地域は地球の縮図である。世界のグローバル化、ボーダレス化が加速度的に進みつつある今、滋賀経済同友会の持つ多様なネットワークとチャネルから得られる幅広い知見はこれからの企業にとって必須のものとなる。会員は同友会活動を通じて地球のあるべき姿を学び、そのことを通じて自らの企業が進むべき方向性を体得することができる。

滋賀経済同友会は企業の、地域の、そして地球の未来を熱く語り合い、“Know How”ではなく“Know Why”を学び、その実現のため常に前向きに行動する同志が集う道場なのである。